

学校だより



市川市立平田小学校

いなほ
稲穂学校教育目標
夢をもち、たくましく生きる
子どもの育成

No.27

R6年3月15日

～共に学ぶ 共に育つ 共に感動する 共に未来を創る～

校長 蜂須賀 久幸



親の「先回り」をぐっと我慢して、失敗も宝物に

現代の子供たちは、気持ちのやさしい子が多い反面、傷つきやすく脆いところも見かけます。たくましさがないと言われるのはそうした所以かも。

ここで言うたくましさとは、自分の頭で考える力、時と場に応じて臨機応変に動ける力。つまり判断する力のことです。これは、誰にとっても欠かせない力であると考えます。

これまでを振り返ると、困難という壁の高さを考えずに、子供が困っていると親が「先回り」をして困難を闇雲に排除しようとしてしまう場面に出会ったことはないでしょうか。成功する達成感や満足感も大事ですが、失敗を通して子供は学び、自ら判断するための抽斗(ひきだし)を増やして成長していきます。ですから、すべてをお膳立てしてしまったら子供の学びが期待できなくなります。時にお膳立てが必要な場合もありますが、そのタイミングやさじ加減はとても重要です。

判断を誤ったことのない人や失敗をしたことのない人は、一人もいません。辛い思いもすれば嫌な目にもあうのが失敗。この経験を重ねることで強さが身につく、人の痛みに寄り添えます。親の「過保護」や「先回り」は、子どものそうした機会を奪いかねないわけです。

ひいては、言われたことだけをやる、または言われなければ何もやらない、というような指示待ちで無気力、わがままな子供になってしまうことも危惧されます。当然、自立(自律)心も芽生えません。また、ちょっとしたことで傷ついたり、何でも人のせいにしてたりする精神的な脆さが随所に露見することにもなりかねません。ですから、子供より先に立って歩くことではなく、子供の失敗も成功も後ろから見守ることが大切です。手を出したいのをグッと我慢することはとても難しいことですが…。

次に挙げたことは、自立(自律)のためのポイントだとされます。

- (1) 何が正しいか、子供自身が判断して決める(選択)
- (2) まずは自分で挑戦させ、見守る(可能性を信じる)
- (3) 失敗を認め、やったこと自体を認める(挑戦)
- (4) 子供の言動に耳を傾ける(共感)
- (5) 子供を尊重・尊敬する(対等)



ただし、子供のその時点での力では越えきれない壁の高さであると判断される場合は、助け舟を出したり学級担任や指導者などに相談したりして、連携して対応することが求められます。成長には個人差がありますが、小さいうちに、小さな失敗をたくさん経験させて、一緒に考えてあげることも大事だと考えます。そのためには、親にも「判断力」が備わっていることが不可欠です。

<参考：woman excite ほか>



- ◆ 2月下旬に2年生が取り組んだフラッグフットボールの活動の様子が、「オービックシーガルズ/きてきてアメフト先生」で検索すると見ることができます。
- ◆ 心配される新4年生の学級編制は、3学級を維持できそうな見通しで進めています。

卒業生へ、そしてバトンを受け継ぐ在校生へ

6年生は1月下旬に被爆体験をした方から話を伺う機会がありました。生々しい事実とともに、友達がいたからいま「命がつながっている」ことも知りました。その語りべの方から『ひとつのことば』という毛筆の作品をいただきました。人を大切にし、互いに思いやる心の大切さを感じるとともに、戦争を体験した者だからこそ訴えたいメッセージが凝縮されているように見えます。

では、北原白秋の詩『ひとつのことば』を見てみましょう。

ひとつのことばで	けんかして	／	ひとつのことばで	なかなかおり
ひとつのことばで	頭が下がり	／	ひとつのことばで	心が痛む
ひとつのことばで	楽しく笑い	／	ひとつのことばで	泣かされる
ひとつのことばは	それぞれに	／	ひとつの心を	持っている
きれいなことばは	きれいな心	／	やさしいことばは	やさしい心
ひとつのことばを	大切に	／	ひとつのことばを	美しく

一枚の紙をくしゃくしゃに丸めたことを想像してみてください。それを人に悪口を言われたり、いやなことをされたりしたときの心に見立てます。傷ついて、とても皸だらけです。

それでは、これを元に戻すために丁寧に広げてみましょう。けれど、元通りにはなりません。傷や皸がいっぱい残ります。たとえアイロンをかけても、完全に傷がなくなることはありません。

これは私たちの心と同じです。こんな悲しい思いをしないように、私たちが気をつけることはなにか。そのヒントが『ひとつのことば』にあるように思います。

ことばは心をもっています。「言霊（ことだま）」と呼ばれることもあります。そして、様々な色もありそうです。何気なく使っている日々のことばを見直し、学校でも家庭でもことばを大事にする平田っ子であり、平田小の卒業生であってほしいと願っています。



【今年度最後のおめでとう】

市川手児奈文学賞

大賞
入選

6年	6年	6年	6年	5年	4年	4年	4年	3年	3年	5年
M	H	T	O	I	Y	C	I	H	S	M
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
Y	O	W	A	M	N	H	K	Y	K	Y

みんな大好き！日本のくだもの

作文・新聞コンクール

最優秀賞
優秀賞

5年	5年
F	T
・	・
H	A

てのひら文庫賞

読書感想文コンクール

佳作
3年
M・Y

※新体力テストで優秀な成績を修めた5・6年生には県や市から「運動能力証」が贈られます。

教科書が無償であることを当たり前と思いませんか？

落書きだらけ、破れたり汚れたりした教科書を見かけます。なくしてしまったということもよく聞かれます。一体、教科書の値段はいくらなのでしょう。

義務教育教科書無償給与制度は、憲法第26条に掲げる義務教育無償の精神をより広く実現するものとして、我が国の将来を担う児童生徒に対し、国民全体の期待を込めて、その負担によって実施されています。つまり、次の時代を担っていく小学生や中学生が、日本の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民みんなの願いが込められていることを自覚することが大切です。同時に、保護者の教育費負担軽減にも寄与しているのです。今年度が終わる今だからこそ考えてください。